

県立高等学校入学者選抜制度改革に係る新制度の概要素案に関する 御意見募集の結果及び県の考え方について

- 1 募集期間
令和5年（2023年）12月25日（月）から令和6年（2024年）1月23日（火）まで
- 2 意見の件数（意見提出者数） 37件（17人）
重複を除く意見数（同趣旨の御意見を1件としてまとめたもの） 29件
- 3 意見の取扱い
 反 映：寄せられた御意見の趣旨を踏まえ、内容に反映するもの 2件
 既 記 載：寄せられた御意見の趣旨・考え方が既に素案に記載及び反映されているもの 5件
 検 討：寄せられた御意見を参考に、新制度による入試の実施までに検討していくもの 7件
 参 考：今後の取組の参考とさせていただくもの 7件
 そ の 他：素案以外についての御意見や上記以外の取扱いを行ったもの 8件
- 4 御意見の概要と県の考え方

※「意見・提案の概要」欄の（ ）内は、同趣旨の意見の数

【制度設計の方向性について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
1	「高校が自校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを反映して選抜できる制度にする」ことを最重要の骨子とし、入試の方法は全て各高校に任せることとしてはどうか。 その際、入試の方法のモデルとして、現素案を各高校に選択肢として提示してはどうか。	県立高校の入試は、公平性確保の観点から県で一定の基準を設けて実施する必要があると考えています。また、入試方法が高校ごとに大きく異なり、複雑化することで、受検生や保護者、指導する中学校に不安や負担が生じることのないよう、大枠は県で統一することが必要であると考えます。 各高校においては、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを反映した特色選抜が引き続き可能となりますので、御意見を踏まえ、今後各高校と連携して具体的な選抜内容の検討を進めて参ります。	参考
【入試の一本化について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
2	現行の制度では、前期の合格者が後期の受検の1か月位前には結果が分かり安堵した様子で過ごしており、最後まで頑張っている後期の受検生にとっては納得がいけない点もあるのではないかと思います。 全受検生と一緒に学力検査を受検する形に早く変更した方がよい。一本化には賛成する。	御意見のとおり、入試を一本化し、全受検生に5教科の学力検査を課すことを考えています。 なお、入試制度の変更については、受検生、保護者及び中学校関係者等の十分な理解を図ることが必要であることから、3年程度の周知期間を設け、令和9年度（2027年度）入試から新制度を実施できるよう進めて参ります。	既記載
3	前期と後期を一本化することに関しては、現在の前期選抜と同様に個人の特色を見てもらえれば良いと思う。	別紙2の新制度（素案）の「○基本方針」に、「多様な能力・適性等を積極的に評価して行う」ことを明記しており、特色選抜は現行の前期（特色）選抜の考え方を継承して行いたいと考えています。 また、別紙2の新制度（素案）の「○検査内容」に、「特色選抜に係る独自検査として、面接、小論文、実技検査、実験、自己表現、総合的な学習の時間の成果の発表に関するものなど」と記載していますが、これらの検査は、現行の前期（特色）選抜で行われている検査と共通のものです。	既記載

4	<p>体調不良で子供が受検ができなかった経験がある。入試の時期は毎年インフルエンザ等が流行する時期。受検生も保護者も心配なので、前期・後期の日程を継続してほしい。(2)</p>	<p>現在は、普通科のほとんどが後期(一般)選抜のみの1回の検査となっています。新制度では全ての高校において、1回の検査で前期(特色)選抜の考え方を継承する特色選抜と後期(一般)選抜を継承する一般選抜の2つの選抜の機会を設けることとしています。</p> <p>また、病気等やむを得ない事情で受検できなかった場合は、これまで同様、追検査日を設定し、受検機会を確保したいと考えています。</p> <p>御意見については、今後追検査の詳細について検討する際、参考とさせていただきます。</p>	参考
5	<p>入試を一本化し、子供たちの個性や知識を一度の試験だけで選抜することについて、子供たちにプレッシャーや負担がかかり、正しい進路を選ぶことができるのか疑問である。</p>	<p>現在は、普通科のほとんどが後期(一般)選抜のみの1回の検査となっています。新制度では全ての高校において、1回の検査で前期(特色)選抜の考え方を継承する特色選抜と後期(一般)選抜を継承する一般選抜の2つの選抜の機会を設けることとしています。</p> <p>御意見を踏まえ、子供たちが中学校での学びにしっかり取り組んだ上で、自身の進路についてじっくり考えて受検先を選択できるよう、高校ごとの詳細な選抜内容については、あらかじめ公表するとともに、中学校の進路指導担当者等に新制度の内容を十分周知し、適切な進路指導が実施されるような取組を検討して参ります。</p>	検討
6	<p>入試の一本化により、受検時期が早い私立高校志向がさらに進んでいくことを懸念する。</p> <p>受検生や保護者の中には、受検機会が1回減ることもあり、少しでも早く合格を決めたいという気持ちが働き、私立高校への合格手続きを行う保護者が増えるのではないかと。</p> <p>前期・後期の2回実施から、1回実施に切り替えた他県の公私比率を計算してみたところ、切り替えの前後でほとんどの県において県立高校より私立高校の生徒割合が上昇している。</p> <p>全てが入試制度の変更による影響とは言わないが、私立高校の入試が1か月早く、専願・特待・奨学生入試と一般入試の2回あるのに対して、県立高校が二次募集を除くと1回になったことの影響は多少なりともあるのではないかと。(2)</p>	<p>現在、私立高校の入試は1月下旬からスタートしていますが、入学者選抜制度検討委員会の提言を受け、子供たちが進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保するため、適切な入試の実施時期を設定することが必要であると考えています。そのため、入試の実施時期については、現在私立高校と協議を進めています。</p> <p>また、新制度では、受検は1回となりますが、1回の検査で特色選抜と一般選抜の二つの選抜を行うため、実質2回の受検機会を設けることとなります。御意見を踏まえ、新制度の趣旨や内容を受検生、保護者及び中学校関係者等にしっかり周知して参ります。</p> <p>御意見でいただいたとおり、他県における公私立の生徒の割合が入試制度の変更のみに起因するものかどうかは不明ですが、県としては、今後も県立高校の魅力化を図る取組と並行して、各学校・学科・コースの特色を反映できる入試制度の検討を進め、県立高校に進みたいと思う生徒の確保に努めて参ります。</p>	参考
【新制度の導入時期について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
7	<p>新制度の素案は過大で、3年後の2027年度入試での導入は少し早すぎるように感じる。</p> <p>入学者選抜制度検討委員会で十分検討したことは思うが、段階を経て、中学校、高校、大学の先生方、県や市、地域の多くの方々の幅広い意見や議論を踏まえて再度検討を進めてもらいたい。</p>	<p>入学者選抜制度検討委員会では、会長及び副会長を大学教授が務め、小中高の校長会をはじめ、市町村教育長、小中高のPTA団体、議会等、県内の各種団体の代表が委員となり、令和3年(2021年)から約1年半にわたる協議が行われました。</p> <p>なお、今回お示した素案は、同委員会から令和5年(2023年)3月に出された提言を踏まえて作成しています。提言の趣旨を踏まえた制度を実現するためには、時期を逸することなく、早急かつ十分な周知期間をもって導入する必要があると考えており、現在の小学校6年生が対象となる令和9年度(2027年度)入試での導入が適当であると考えています。</p> <p>御意見を踏まえ、今後具体的な選抜内容について検討する際にも、関係者の意見を聴取しながら検討を進めて参ります。</p>	参考

【募集人員について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
8	素案のA日程では、進学校であっても最低10%は特色選抜で募集しなければならない。学校や県教育委員会は、スポーツ特待生の募集や特進クラスの設置など、受け入れ側の高校が特色を明確にし、それに対応する高校入試となるようにできるか。	別紙2の新制度(素案)の「○検査内容」及び「○選抜方法」に記載のとおり、各校が定めるスクール・ミッション及びスクール・ポリシーを踏まえた選抜となるよう、特色選抜に係る独自検査実施の有無、又は学力検査の傾斜配点など、県で定めた基準の範囲で各校の裁量で定められるようにしたいと考えています。	既記載
【選抜について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
9	特色選抜の独自検査は各学校が定めてよいこととなっているが、現場に任せていると思いついた意見が通りにくい。他県の選抜を参考に、県教育委員会から各高校に独自色を出すよう強く働きかけてほしい。	御意見を踏まえ、他県の特色重視の選抜等も研究しながら、各高校が特色選抜の趣旨に基づいた選抜内容の検討ができるよう、今後、各高校に情報提供や助言を行って参ります。	検討
10	現行の前期選抜は、高校においては、入試業務の負担や授業日の減少など、中学校においては、進路が決まった生徒が多数いる中で後期選抜を受検する生徒の指導の難しさなど課題がある。本来、前期選抜は学力以外の長所等も総合的にみて可否の判断をする選抜だったと認識しているため、新制度で1日目に学力検査、2日目に特色選抜に係る検査を行うことで、現行制度の問題点をカバーしつつ、前期選抜の本来の意義が維持できる案だと思う。	特色選抜は、現行の前期(特色)選抜の考え方を継承し、一般選抜は、現行の後期(一般)選抜を継承して実施したいと考えています。御意見を踏まえ、現行制度における各選抜の良い点を生かしながら、課題を改善できるよう、今後各高校と連携して具体的な内容を検討して参ります。	既記載
11	一般選抜と特色選抜の両方を受検することは可能か。	別紙2に記載のとおり、一般選抜は、受検生全員を対象として実施しますので、全ての受検生が受検します。特色選抜は、まず各高校が受検生全員を対象として実施するか希望者のみを対象として実施するかを定めます。そのため、特色選抜の対象を受検生全員とする学科・コースでは、受検生全員が一般選抜と特色選抜の両方を受検することが可能です。一方、特色選抜の受検を希望制とする学科・コースの場合、受検生が希望すれば一般選抜と特色選抜の両方を受検することが可能です。	既記載
12	一般選抜と特色選抜を両方受検できる場合、受検者が多い学校では、学力検査と独自検査の実施や採点において、かなり負担になると思う。また、両選抜の選抜方法に大きな差がなければ、とりあえず特色選抜に出願する生徒が多くなると思う。	受検生の多様な能力が評価される制度となるよう、素案でお示しているとおり、受検生に、1回の検査で特色選抜と一般選抜の二つの選抜の機会を設ける制度としたいと考えています。御意見を踏まえ、検査の実施や採点に係る負担を軽減できるよう、今後検討して参ります。また、両選抜の趣旨を踏まえた選抜内容となるよう、今後各高校と連携して具体的な検討を進めるとともに、両選抜の内容については受検生、保護者及び中学校関係者等にしっかり周知して参ります。	検討
13	一般選抜と特色選抜の併願を不可とするのが良いと思う。また、学力検査と独自検査の配点で明確な違いを出しておくことで、中学生が中学校生活の指針を持ち、自分の強みは何かをよく考えて高校入試に臨めるようになると思う。	受検生の多様な能力が評価される制度となるよう、素案でお示しているとおり、受検生に、1回の検査で特色選抜と一般選抜の二つの選抜の機会を設ける制度としたいと考えています。御意見を踏まえ、各高校が一般選抜と特色選抜の趣旨を踏まえた検査内容や配点の工夫ができるよう、今後各高校と連携して選抜内容の具体的な検討を進めて参ります。	参考

【検査日程について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
14	<p>1日に5教科の検査を行うことで、今までより試験開始時間が早くなったり、終了時間が遅くなることが考えられるため、遠方からの受検生には配慮が必要だと思う。</p> <p>デジタル採点を利用し、1日目は、地元の試験会場で学力検査を受検し、答案を受検先の高校にデータで送信して採点を行い、2日目は受検先の高校に出向いて特色選抜に係る検査を受検するなどできれば、その点は少し解消できると考える。</p> <p>また、熊本市内から特色ある地方の高校の受検もしやすくなるのではないか。</p>	<p>試験の開始時間及び終了時間については、受検生への負担も考慮しながら学力検査問題のあり方も含めて今後検討を進めていくこととしています。</p> <p>御意見でいただいたデジタル採点の活用については、今年度から一部の県立高校において定期考査等でデジタル採点の試行を行っているため、その検証も踏まえ、高校入試での活用が可能かどうか、採点の負担軽減も含めて今後検討して参ります。</p>	検討
【合格発表について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
15	<p>入試が一本化された場合、合格発表日はいつ頃になるか。</p> <p>A日程の入試を2月中、合格発表を遅くとも3月上旬に行い、合格者招集日を早めてもらえると、入学のための準備期間が長くなるため助かる。</p> <p>もう少し入試と入学までの期間にゆとりを持たせた方が保護者や学校、制服業者が準備できるのではないか。(2)</p>	<p>合格発表日については、今後検討する入試全体の日程と併せて検討していきますが、入試を一本化し、3月上旬に実施する場合、合格発表は3月中旬の早い時期に行うことを検討しています。</p> <p>追検査やB日程の実施等を踏まえると、合格者招集日を大幅に早めることは難しいと考えていますが、御意見を踏まえ、入学準備の期間についても考慮しながら今後入試全体の日程を検討して参ります。</p>	検討
【入試の実施時期について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
16	<p>基本的には賛成だが、時期は早めた方がいいのではないかと思う。2月下旬での実施が理想。</p> <p>3月は中学校及び高校の教員が多忙な時期であり、合格発表後の制服業者の対応も間に合わない可能性があるのではないか。</p>	<p>現在私立高校の入試は1月下旬からスタートしていますが、2月末までは中学校で進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保するため、現在私立高校と入試時期の調整を行っています。</p> <p>御意見を踏まえ、中学校及び高校双方の業務や入学準備の期間についても考慮しながら、今後入試全体の日程を検討して参ります。</p>	検討
17	<p>中学生の学びの保障や受検生と学校現場の負担軽減など多方面に配慮された素案だと思った。</p> <p>しかし、このままでは私立高校の受検者数の増加や熊本市内の高校への集中が進むことが考えられるため、3月上旬の実施を少しでも早めること、もしくは私立高校の入試の時期を遅らせるよう、より強く働きかけることを提案する。</p>	<p>入試の実施時期については、3月上旬のできるだけ早い時期に実施できるよう、入試に係る事務処理や中学校及び高校の学校行事の実施状況等を踏まえて検討を進めることとしています。</p> <p>また、入試の実施時期については、私立高校との調整が必須であると認識しており、現在協議を進めています。</p> <p>御意見を踏まえ、実施時期については、「私立高校と日程調整を行い、改めて令和6年度中に決定する」という文言を素案に追記しました。</p>	反映
18	<p>入試の時期を私立高校と合わせてほしい。素案では2月に行われる熊本市内の私立高校入試に合格した生徒がそのまま私立高校に流れてしまうと思う。</p> <p>中学生に県立高校の魅力を発信してもあまり見向きもされていない感じさえある。せめて入試時期を同じくして、熊本市内の私立高校か家から近い県立高校か、しっかり考えさせて選ばせたい。</p> <p>郡部の県立高校を残して、その地域の人材育成という重要な使命を担わせることを設置者の県には再度検討してほしい。</p>	<p>私立高校の入試の実施日は各私立高校で設定されており、受検機会の確保という観点からも、実施日を合わせることは難しいと考えています。</p> <p>現在私立高校の入試は1月下旬からスタートしていますが、2月末までは中学校で進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保するため、現在私立高校と入試時期の調整を行っています。</p> <p>御意見を踏まえ、今後も、郡部の県立高校が選ばれるよう、魅力化を図る取組とその特色を反映できる入試制度の検討を並行して進めて参ります。</p>	参考

19	<p>私立と公立の合格決定の日程に差があり過ぎると思う。</p> <p>現行の前期選抜と後期選抜の間あたりでの試験時期や、2月末には進路が決まり、3月に卒業を迎えられるスケジュールならいいと思う。(2)</p>	<p>現在私立高校の入試は1月下旬からスタートしていますが、2月末までは中学校で進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保するため、現在私立高校と入試時期の調整を行っています。</p> <p>御意見を踏まえ、実施時期については、「私立高校と日程調整を行い、改めて令和6年度中に決定する」という文言を素案に追記しました。</p>	反映
20	<p>入試を一本化して行うとのことだが、入試の日程が現在の後期選抜と同様の時期になっているのはなぜか。現行の後期選抜も時期が遅すぎると考えている。</p> <p>進路先が決定してから1か月もない中、入学準備等を短期間で行っており、仕事をしている保護者にとって負担である。2月中旬から下旬には進学先を決定してほしい。</p> <p>中学校や高校の先生方の意見も聞きながら、試験の日程については再度検討してほしい。(2)</p>	<p>有識者の提言を受け、2月末までは中学校で進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保できるような入試時期を設定しています。</p> <p>御意見を踏まえ、入学準備の期間についても考慮しながら今後入試全体の日程を検討して参ります。</p> <p>また、入試に係る事務処理の日程や合格発表日を検討する際には、適宜学校関係者の意見を聴取しながら、学校の業務の実態等を踏まえた日程を検討して参ります。</p>	参考
【追検査について】			
意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
21	<p>高校進学は将来の進路に大きく関わるため、コロナ禍で設けられた予備日は継続してほしい。</p> <p>体調不良で受検できなかった生徒のために2月末に入試を行い、3月上旬に予備日を設けるなど受検生の体調に配慮すべきではないか。(2)</p>	<p>追検査については別途検討することとしていますが、病気等やむを得ない事情で受検できなかった場合は、これまで同様、追検査日を設定し、受検機会を確保したいと考えています。</p> <p>なお、2月末までは中学校で進路についてじっくり考え、しっかり学ぶ期間を確保するため、現在私立高校と入試時期の調整を行っています。</p> <p>体調不良の受検生に配慮すべきという御意見を踏まえ、今後追検査の詳細について検討して参ります。</p>	検討

その他の取扱いを行ったもの

意見 No.	意見・提案の概要	県の考え方	取扱い
22	<p>学区は今までどおり県北・県央・県南の3学区なのか。3学区にしたことで、中学生が地元の高校に残りにくくなっているように感じる。</p> <p>今回の入試制度の変更を機に、3学区制のメリットとデメリットを検証していただきたい。(2)</p>	<p>地元の高校に残りにくくなっている要因は、3学区への拡大だけではなく様々考えられます。御意見を踏まえ、今後の参考にさせていただきます。</p>	—
23	<p>高校の統廃合も必要なのかもしれない。</p>	<p>御意見として承ります。</p>	—
24	<p>私立学校の授業料が実質無償化された現在、受検生の学校選択の時期が早くなっている。</p> <p>そのような中、入試の実施時期を遅くすることで、地域の県立学校が選択されないようになり、地方の高校の存続に懸念がある。</p> <p>県立学校の魅力が地域に伝わらず、厳しい現状が続いている。子供たちが地元の高校に通いたいと思える学校づくりなど県立学校を後押しできるような施策に取り組んでほしい。(2)</p>	<p>県立高等学校あり方検討会の提言(R3.3)を受け、令和6年度(2024年度)までの4年間は、県立学校の魅力化に注力することとしており、提言で示された取組を推進しています。この期間に、地域の県立高校においても、入学者数や定員充足率が増加するなど、一定程度の効果が現れてきていると考えています。地元の県立高校が選ばれるよう、引き続き更なる魅力化に取り組んで参ります。</p>	—
25	<p>県は、県立高校の魅力化に取り組んでいるが、ソフトをどれだけ工夫してもハードが伴わないと、今回の入試制度改革により公立離れが進んでしまう可能性があるため、入試制度だけでなく、ハード面の向上も同時に進めていくべき。</p>	<p>御意見として承ります。</p>	—
26	<p>郡部の定員割れしている高校への影響について議論が不十分で時期尚早である。</p> <p>本改革の議論の発端は、令和3年の「県立高等学校のあり方と今後の方向性について～新しい時代に対応した魅力ある学校づくりへ～(提言)」にあり、この提言で、魅力ある学校づくりに向けた14の取組の一つとして入試制度のあり方の検討が示された。すなわち、入試制度改革の必要性は、定員割れが続く高校が多数ある中で、いかにして魅力ある学校づくりを進めるかということにあったと言える。</p> <p>議事録を見ると、入学者選抜制度検討委員会では、定員割れをしている郡部の高校に配慮した高校入試制度の検討が十分議論されなかったのではないかと印象を持つ。</p>	<p>県立高校の魅力化を図る他の取組と並行して、入学者選抜制度検討委員会では、入試時期の見直しや選抜の方法、現行の入試制度の課題や中学生や保護者のニーズを踏まえた入試制度の改善の検討が行われました。</p> <p>委員からは、「県立高校の魅力化の取組と入試制度の改善は同時進行で進めるべきではないか」、「特色ある学校づくりや各高校の取組の発信がより一層必要である」、「各高校が特色化したことを入試に反映できるようにすることが必要である」といった意見が出され、県立高校の魅力化を念頭に、現行制度における課題や中学生の実態等を踏まえ、入試制度の中身について多面的・多角的に協議が行われました。</p> <p>県としては、入試制度のみで定員割れを防ぐのではなく、今後も県立高校の魅力化を図りながら、各学校・学科・コースの特色を入試に反映できるような制度を検討して参ります。</p>	—
27	<p>様々な取組を重ねてきているものの、それが志願者の増加につながっていない高校が多い現状にある。</p> <p>郡部の高校にとっては、前期と後期の2回あった試験が1回に減り、全ての高校と同じスタートラインに立って特色化で競うとなると、入学者を確保できるのか不安に思う学校関係者が多いと思う。</p> <p>今後益々進む少子化の中で、県立高校と私立高校がバランスよく共存していけるように、特に郡部の高校が地域の高校として存続していけるようにしていくことが大切である。</p> <p>そのためには、公私の定員管理や入試時期などについて私立高校との調整は欠かせないと思う。</p>	<p>入試の実施時期については、入学者選抜制度検討委員会の提言にもありましたとおり、私立高校と入試時期の調整が必須であると認識しており、現在協議を進めています。定員管理については、御意見として承ります。</p>	—

28	<p>入学者選抜制度検討委員会で意見が出されていたように、様々な取組を行政とタイアップして行ってきたも、志願者の増加につながっていないという現状がある。このような指摘について、どのように考えて対処していこうとしているかを明確に答えるべきであると思う。</p>	<p>県立高等学校あり方検討会の提言(R3.3)を受け、令和6年度(2024年度)までの4年間は、県立学校の魅力化に注力することとしており、提言で示された取組を推進しています。この期間に、地域の県立高校においても、入学者数や定員充足率が増加するなど、一定程度の効果が現れてきていると考えています。地元の県立高校が選ばれるよう、引き続き更なる魅力化に取り組んで参ります。</p>	—
29	<p>今回の改革によって、郡部の高校で入学者が確保できなくなるのではないかなどの懸念をなくすために、高校入試を一本化した場合に、特に現在定員割れをしている郡部の高校への配慮をどのように行っていくのかについての説明も必要である。 その説明が十分尽くされていない中で、今回の改革には反対である。</p>	<p>新制度では、現在、前期(特色)選抜を実施していない熊本市以外の普通科においても、新たにスクール・ミッションやスクール・ポリシーなどの各学校の特色等を反映した特色選抜が実施できるようになります。 また、今後入試を一本化することにより、出願できる県立高校は1校となりますので、中学生が地元の高校の特色を十分理解した上で受検校を選択できるよう、地元の中学校としっかり連携して参ります。</p>	—